

デュラス研究会

「ミレイユ・カル＝グリユベールのデュラス論 について」



写真: Jérôme Panconi

講師: ミレイユ・カル＝グリユベール氏

2024 年度立教大学招へい研究員。パリ第3 ヌーヴェル・ソルボンヌ大学名誉教授、作家。専門はフランス文学、美学。カナダ王立協会芸術文学アカデミーのメンバー。主な著書に *Claude Simon, une vie à écrire* (Seuil, 2011 年)、*Marguerite Duras, la noblesse de la banalité*, (De L'incidence éditeur, 2023 年)がある。

11月8日(金)18:45～19:45 ハイブリッド開催

対面参加: 立教大学池袋キャンパス 6405 教室

Zoom 参加 (18:40 以降にアクセスください):

<https://rikkyo-ac-jp.zoom.us/j/87177233488?pwd=lqio2uJWqSIW6tFVaeE08v7nXpwQsH.1>

ミーティング ID: 871 7723 3488

パスコード: 653437

本学教職員・学生・一般対象

使用言語: フランス語

パリ第3 大学名誉教授のミレイユ・カル＝グリユベール氏はヌーヴォー・ロマンの作家を中心にこれまで精力的に研究を続けられ、ミシェル・ビュートル、クロード・シモン、マルグリット・デュラスの作品を中心に 20 世紀フランス文学研究を牽引されている。その膨大な研究書に加え、編集作業も手掛けられ、20 世紀フランス文学を検証するとともに、その魅力を発信し続けている。さらに作家としても活躍されている。デュラス研究会は 2013 年に発足した研究会で、毎年 3 回の研究発表会を行っているが、本研究会ではカル＝グリユベール氏の『マルグリット・デュラス—平凡という高尚さ』(2023 年、ドゥ・ランシダンス社刊)を取り上げ、デュラス研究への寄与について、デュラス研究者と検証を行う。

主催: 立教大学外国語教育研究センター

入場無料/事前予約不要/問い合わせ先: 関 未玲(sekimirei@rikkyo.ac.jp)